

「イラスト外科セミナー

手術のポイントと記録の書き方」 第2版

小越 章平 著

鹿児島大学医学部教授・第1外科

愛 甲 孝

近年、内視鏡手術や周辺機器の進歩により、外科手術、周術期管理はますます複雑の度を加えているが、その一方ではartとしての基本的な手技の習得についての重要性が指摘されている。この度、高知医科大学の小越章平教授(現副学長)による手術手技の解説書「イラスト外科セミナー」が8年ぶりに改訂の運びとなった。本書初版は「劇画タッチの手術テキスト」として若い外科医あるいは研修医に好評を博し、破格のベストセラーとして話題を呼んだものである。

本書の構成は、第1部の「手術のポイント」、第2部の「手術記録の書き方」から成っている。第1部では一般外科手術全般にわたり、「術前術後管理のポイント」とともに、手術手技について基本に忠実に、学生時代から絵画クラブで鍛練された著者自身の手によるイラストを多用し詳細に記述されている。初心者が陥りやすいpitfallについてもあますところなく、プロとは違った温かみのある線で図示されている。本書の生命であるこのイラストは、読者に

今にも自分で描けそうな気にさせるものであり、著者の主張する“描いて学ぶ外科学”のコンセプトが遺憾なく発揮されている。確かに、この種の外科手術や解剖書の挿絵の威力は、“どこがポイントか”よく理解している外科医が自分自身で描写説明するに尽きることは論を待たない。

更には、最近の器械吻合や内視鏡手術の進歩に埋もれがちな手縫い法についても、著者のこだわりが見事に描出されている。ぜひ研修医をはじめ若い外科医が習得していただきたいものである。

いま1つ、本書の初版がベストセラーになったゆえんは、第2部の手術記録の書き方が詳細に英文と対比して記述されている点である。手術記録記載の10か条のポイントをはじめ、手術記録に欠かせない用語についても詳細に記述されている。この文中で著者は“個人用手術記録”の重要性を読者に以下のごとく訴えている。すなわち“最近、日本外科学会をはじめ、学会認定医制度が進んでいる。そのためにも、また自分自身の生涯の記録として個人的な手術

簿を作ることを勧めたい。(中略)ぜひ、生涯の記録として、(研修医の時代に)今から始めることを勧めたい”と、また随所にsupplementとして著者自身の外科医としての見解とともに読者へのメッセージがあり、最後には著者の恩師である中山先生と佐藤先生の含蓄のある言葉で本書を締めくくっており、演出的にも実に心憎い。

以上のように、本書は外科病棟で多忙をきわめている外科研修医にとっての実践的な手術書として例をみない好著である。親しみやすく、わかりやすく、手術の経験を豊富に持った小越先生ならではのものであり、先生の遊び心でもってはじめ、その完成をみることができたことは間違いない。外科病棟に勤務する研修医や若い外科医の方々が座右の書として大いに活用されることをお奨めしたい。

● AB判 頁296 イラスト176
表17 1998 定価(本体6,500円
+税) 7400

医学書院 刊(☎03-3817-5657)